

注目のビワ新品种「BN2 1号」の本県における栽培特性

府中果樹研究所

1 背景

ビワの栽培では摘果や袋かけ、収穫・調製、出荷作業が労働時間の多くを占めます。また、ビワの収穫期は他品目と比較して短いことから、特に収穫から出荷作業までの労力が集中します。この労力を分散するためには、収穫期の異なる品種を組み合わせる栽培が有効です。しかし早生品種は開花が早く、寒害を受けやすいことから、開花が遅く、果実品質が優れる新品种の開発が望まれていました。こうした中、近年、露地栽培が可能な早生新品种「BN2 1号」が育成されましたので、香川県での栽培特性を紹介します。

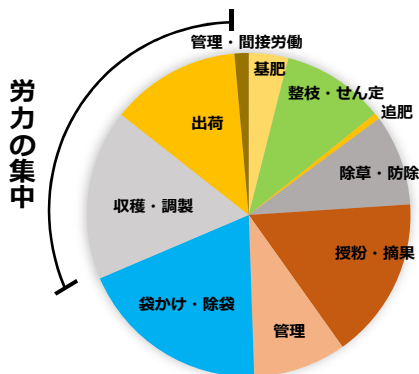


図1 ビワの作業別労働時間の割合

農林水産省 農業経営統計調査（平成19年）より作成



写真1 「BN2 1号」の果房

2 結果の概要

表1 「BN2 1号」の開花期と収穫期

品種名	年次	開花始期	開花盛期	開花終期	幼果の生存率(%)	収穫期
BN2 1号	令和2年	11月25日	12月18日	1月4日	90.0	5月21日
	平年	11月17日	12月1日	12月21日	74.7	5月22日
長崎早生	令和2年	11月7日	12月12日	12月28日	96.7	5月21日
	平年	11月10日	11月29日	12月18日	82.0	5月24日
茂木	令和2年	12月18日	1月4日	1月31日	100.0	6月1日
	平年	11月28日	12月17日	1月26日	83.3	6月5日

注1) 平年：平成28年～令和2年の平均値

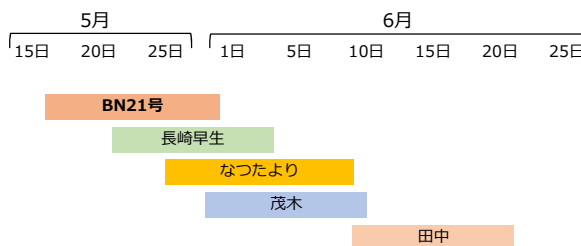


図2 ビワ主要品種の収穫期

「BN2 1号」は「長崎早生」と比較して開花期は1週間程度遅く、収穫期は同日から数日早くなりました。

表2 「BN2 1号」の果実品質と果皮障害の発生程度

品種名	果形	果皮色	年次	果実品質			果皮障害の発生程度				
				果実重 (g)	糖度 (Brix)	酸度 (g/100cc)	へそ青症	へそ黒症	そばかす症	裂果	紫斑症
BN2 1号 短卵	橙黄	令和2年	50.8	17.0	0.15	0.2	1.6	3.6	0.2	0.1	0.2
		平年	52.7	16.1	0.23	0.4	1.0	7.2	1.9	1.4	0.2
長崎早生 長卵	橙黄	令和2年	42.7	14.9	0.20	14.1	24.7	8.8	0.0	0.0	0.0
		平年	45.0	14.2	0.28	6.5	9.1	8.9	1.1	0.4	0.2
茂木 長卵	橙黄	令和2年	42.7	12.3	0.20	6.5	6.4	1.4	0.0	0.0	0.0
		平年	42.4	13.1	0.21	2.9	2.2	3.8	0.6	0.0	0.1

注1) 果皮障害の発生程度：(「甚」の果数×3+「軽」の果数×1)/(果数×3)×100 で算出

注2) 平年：平成28年～令和2年の平均値

<品質面の特徴>

- ・大果
- ・食味良好
- 糖度が非常に高く
- 酸度も低い

3 成果の活用・留意点等

- ① 収穫期が異なる品種を組み合わせる栽培することで、収穫時期の労力分散になります。
- ② 平成28年1月の寒波では寒害被害が認められたことから、本県においては、冬季に低温になりにくい現在のビワ産地であれば導入可能と考えられます。
- ③ 日当たりの良好な園地では、皮が剥きにくくなる場合があります。

平成26年度～平成30年度は農水省の委託事業「イノベーション創出強化研究推進事業(ビワ供給拡大のための早生・耐病性ビワ新品种の開発および生育予測システムの構築(26100C))」として実施したものです。